

## 気仙沼を去るにあたって

いよいよ気仙沼を去る時が来ました。2015年2月に、極寒の気仙沼へ来たことが、昨日のことにように思われます。3年2カ月の気仙沼での生活は、様々なことを教えてくれました。

【漁業】私達が食べる魚は、漁師さん達が獲ります。漁業は寒い・朝早い・船の中での生活と、若者には人気がありません。気仙沼は、カツオの水揚げは17年間日本一、サンマの水揚げは、昨年は本州一でした。また、湾内では、カキ・ホタテ・ワカメの養殖をしています。

【三陸の海岸】三陸沖は、黒潮（暖流）と親潮（寒流）がぶつかり、世界の三大漁場の1つです。リアス式海岸には、まだ白砂青松が残っています。海岸の傍には、漁業集落があります。男は海で魚を獲り、女は畑仕事をして、自給自足の生活がまだ残っています。海は、風の時と津波と2つの顔を持っています。

【気仙沼】人口約6万5,400人、被災前から約1割人口が減少しました。「海と共に生きる」気仙沼。産業の7割以上が漁業と水産加工業です。マックや映画館はありません。イオンが唯一の憩いの場です。

【東北の街並み】江戸時代、日本海側は、北前船で栄えました。酒田が代表的な港（物資の集積地）です。古代から、中国や朝鮮に近い日本海側の方が、太平洋側よりも発展してきました。北上川や最上川の沿線は、米や紅花の集積地として栄えました。村田・増田・江刺等は、古い街並みが残っています。また、財力のある商家では、今でも雛祭りが盛んです。

【東北の祭り】東北の祭りは、主に短い夏と長い冬に行われます。夏は、盆踊りや山車です。私は観光化されていない、黒石よされや西馬内（にしもない）盆踊りが好きです。岩手県では鹿踊り、秋田県ではなまはげ等が行われます。

【東北の冬と雪】東北の冬を知らないで、東北を語ることはできません。私は雪道で何回も転びましたが、雪道を自転車に乗っている人もいます。過疎化・高齢化によって、部落総出での雪降ろしも大変になってきています。これからは、雪かきボランティアの出番です。

【東北の私鉄】弘南鉄道・秋田内陸縦貫鉄道・阿武隈急行・三陸鉄道、これら私鉄の多くは、国鉄民営化によって廃線になり、地元の第三セクターとして、現在も活躍しています。「食堂列車」「ストーブ列車」「婚活列車」等のイベント列車もあります。

気仙沼で生活して、仕事に行き詰まって、正直仕事を辞めようかと思った時もありました。しかし、周りや地元の多くの中間の人達によって、任期を全うすることが出来ました。漁港に行くと、浜の漁師さん達から「上田さんはいつまでいるんだ」と聞かれて、「3月までです」と言うと、「上田さんもやっぱり帰ってしまうのか」と言われます。申し訳ない気持ちと同時に、自分も少しは漁師さん達の役に立ったのだと、うれしく思

います。

**【私の一番好きな風景 船はサンマ船 (気仙沼漁港内湾)】**



**【私が担当した災害復旧工事 防潮堤ではなく、護岸の嵩上げです (横沼漁港海岸)】**



私は、4月から福島県檜葉町で、仕事に着く予定です。

3年2カ月にわたり、拙い「気仙沼通信」を読んでいただき、本当にありがとうございました。